



児童・生徒の登下校の安全

佐藤 剛太

**問** 通学路で停止線や道路表示が消えている場所があるが道路管理者として、今後の対応を伺う。

**土木課長** 停止線などの指示標示は、交通管理者の県公安委員会が対応しており、市としては、道路パトロールを行い警察に要望しています。

**問** 学校や家庭で、止まるように指導を行っており、学校の周辺で多くの子どもたちが通る所は、市で停止線などを引き直すなどの対応を行っていくべきではないか。

**建設部長** 交通環境の整備はおのおの守備範囲があり、そのルールに基づいて行っており、それを超えて行うことはなかなか難しいですが、今後、公安委員会には強く要望していきます。

**問** ふれあいパトロールの皆さまは通学中の子どもたちがケガをした時に応急処置できるテッシュや絆創膏を持って見守りを行っている。今後は応急処置のできる用具などを配布するべきではないか。

**学校教育課長** ボランティアで活動ですので、皆さまに応急処置を

してくださいというお願いは、なかなか難しいと思います。

**問** 通学中にけがした児童をそのまま放置するわけにもいかないし、何か対応をしていただいている。少しでもやりやすい環境にすべきではないか。

**市長** 自分の生活のリズムの中で見てください。できれば子どもたちの時間帯に合わせ見守りながら、散歩なりご協力をいただければというのが基本です。さらに何かをお願いすることは行政としては考えていません。

連携して見守り強化を！

**問** 子どもたちの登下校の見守りを強化するために、ふれあいパトロールや地域の方々、そしてシルバー人材を活用して行うことで見守りの強化をできるのではないか。

**教育長** ふれあいパトロールは、これまでボランティアでやっていた方々の意思を尊重しながら行っていきたいと思います。ほかとの連携は考えていません。



自転車駐輪場維持管理

須藤 功

**問** 自転車の駐輪収容できる台数と、その利用している台数について伺う。

**市民経済部長** 収容可能台数は591台で、利用台数は、一時利用も含めて1日当たり612台となっています。

**問** 屋根がかかっているところと、屋根がかかっていないところがある。答弁の591台というのは、屋根がかかっているところも台数として入っているのか伺う。

**市民経済部長** 591台は、屋根のかかっているほうだけ含まれていません。

雨ざらしの自転車がある

**問** 岩沼市の駐輪場は有料である。お金をいただいても屋根がかかっていないところに、自転車を雨ざらしにして止めている。このことについてどう思うか伺う。

**市民経済部長** 利用者が多い日には屋根がない場所に駐輪していただいている場合があることは把握しています。市としても、運営上の課題の1つと認識しており、屋

根の増設について考えていました。

**問** 既存の施設は、駐輪間隔が狭くてとても使い勝手が悪いと聞いている。昔は自転車を普通に止めておいた。今は車輪を乗せて止めておく。ゆつたりと止められるようなもの、そういうことを考えると、今の使い勝手をもっともって考えていかなければいけない。

例えば、2段式がある。自転車の上に自転車があるような、それで手で持ち上げて置いてから今度はずつと押し上げる。これにするのと、今の駐輪施設の屋根を高くしなければいけない改修は大変だが、どう思うか伺う。

**市民経済部長** 結果的に、今後いろいろな改修をしていくこともあると思いますので、そのタイミングで2段式も含めて考えていきたいと思います。